

2020 年度後期 授業改善アンケート集計結果に対する意見

—経済学部—

経済学部長 増川純一

2020 年度後期授業は、前期に引き続き、科目担当者が特に希望する小規模授業科目以外は全て遠隔で実施された。

回答率に関しては、Web 上での実施のため、例年の授業時間内でのアンケート実施に比べ低い回答率となっている。

大学全体	2019年後期	2020年前期	2020年後期
延履修者数	51,681	41,849	47,539
延回答者数	30,322	9,375	10,630
回答率	59%	22%	22%

設問 2「この授業の内容を理解するために努力したか」の平均値が 2019 年後期 3.88、2020 年前期 4.29、2019 年後期 4.37 であることから推測されるように、例年の結果との単純比較は難しいように思われるので、遠隔授業に不慣れだった前期との比較を中心のいくつかの項目を見て行きたい。

大学全体に関して、設問 1~13 全てでスコアが上昇していることが特徴的である。特に、

・設問 1「円滑に授業を受けることができた」前期 4.13、後期 4.34 と有意に上昇している（標準偏差≒四分位範囲位≒0.3 とした）。これは、履修者、科目担当者双方が遠隔授業の経験を積んだ成果であろう。

・設問 3「教員は毎回の授業ごとに十分な指示を行っていた」が前期 4.05、後期 4.28 と大きく上昇している、同様に設問 4「教員の指示は明確で分かりやすかった」が前期 3.98、後期 4.23、設問 12「教員の授業資料は見やすかった」が前期 3.96、後期 4.18 と大きく上昇している。担当教員の意識の向上と努力によるものと考えられる。

・設問 7「教員は遠隔授業のツールを適切に使っていた」が前期 4.03、後期 4.25 と上昇している、同様に設問 8「教員との双方向のやりとり」が前期 3.71 と低かったのに対して、後期 4.01 と改善している。

・また全体としての評価である設問 10「この分野への興味・関心が引き起こされた」が前期

3.93、後期 4.15 と上昇し、設問 11「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」が前期 3.98、後期 4.23 と上昇し、2019 年後期 4.14 を若干上回っているのが印象的であった。

経済学部に関しても、設問 1~13 全てでスコアが上昇していることが特徴的である。特に、

・設問 1「円滑に授業を受けることができた」前期 4.05、後期 4.29 と上昇している。

・設問 2「この授業の内容を理解するために努力したか」が 2020 年前期 4.29、2019 年後期 4.4 と上昇している。

・設問 3「教員は毎回の授業ごとに十分な指示を行っていた」が前期 3.97、後期 4.25 と大きく上昇している、同様に設問 4「教員の指示は明確で分かりやすかった」が前期 3.88、後期 4.17、設問 12「教員の授業資料は見やすかった」が前期 3.86、後期 4.14 とこれも大きく上昇している。担当教員の努力が見られた。

・設問 7「教員は遠隔授業のツールを適切に使っていた」が前期 3.93、後期 4.24 と大きく上昇している、同様に設問 8「教員との双方向のやりとり」が前期 3.72 と低かったのに対して、後期 3.98 と改善している。

・また全体としての評価である設問 10「この分野への興味・関心が引き起こされた」が前期 3.79、後期 4.06 と上昇し、設問 11「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」が前期 3.88、後期 4.17 と上昇し、2019 年後期 4.01 を上回っている。

遠隔授業の事初めであった 2020 年度前期と比して満足度の高い授業が行われたといえる。それは、学生や科目担当教員双方が遠隔授業の経験を積んだことによってもたらされたものと思われる。大学全体でも経済学部単独でも「総合的な満足度」を問う設問 11 のポイントが 2019 年後期と比べても上回っていることは遠隔授業そのもののメリットを示しているように思われる。

以上